

英語科学習指導案

日時 平成18年11月15日(水)5校時

学級 3年1組(男20名 女16名 計36名)

授業者 野村真紀

1 単元名 Speaking Plus 3 道案内 (NEW HORIZON English Course Book 3)

2 単元について

(1) 教材観

「道案内」については既に各学年で学習してきた。1年次は乗り物での簡単な案内、2年次は徒歩による道順の案内であった。最終段階である本単元はその発展的な内容になっており、電車やバスを用い、乗り換えがある場合の対話を学習する。Unit 4で Do you know how to get to ~?の言い方を扱った後でもあり、「道案内」を統合的に学習できる教材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、全体的に明るく英語学習に取り組んでいる。教科書の音読やコミュニケーション活動に意欲的に取り組む生徒が多い。

しかし、男子に比べて女子の音読の声が小さく、発言も固定化している。また、個人間の定着の度合いの差が大きく、英語を苦手としている生徒も少なくない。授業では期間を決めて発言ポイント制をもうけること、個人またはペアでの課題解決の時間や問題を解いたり授業のまとめを書いたりする時間をできるだけ確保すること、机間指導により個別支援を多くすること、に配慮している。

(3) 指導観

本時はまず、前ユニットで学習した how to~の復習から入る。Do you know how to~?の言い方は比較的定着度が高かったため、Book 2で既習である Could you tell me~?と結びつけて本時の学習課題を把握できるものとする。また教科書本文は架空の駅名を使用しており、導入で用いても場面をイメージしにくいことが予想される。生徒は修学旅行で東京に行き、グループ毎に電車の乗り降りや東京駅構内の移動を経験していたため、導入から生徒の現実に近い場面設定をし学習意欲を喚起したい。最終的にはペアで対話文を作成し発表させる。そのために練習の段階で基本表現から作成の手がかりとなる応用表現まで十分に口頭練習をさせること、場面や機能を意識した活動になるようワークシートを工夫すること、机間指導により個別支援を多くすることに心がけて指導したい。

3 単元の目標および評価計画

(1) 単元の指導目標

〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕

・すすんで対話を作り、発表することができる。

〔表現の能力〕

・目的地までの乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりすることができる。

〔理解の能力〕

・道案内の対話を聞き、内容を把握できる。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	観点別評価規準			
		関・意・態	表現	理解	言・文
1 本時	道案内	対話文作成や発表にすすんで取り組んでいる。	目的地までの乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりできる。		
2	道案内		本文を正しく	道案内の対話を聞	

			音読できる。	き、正しく把握できる。
--	--	--	--------	-------------

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・すすんで対話を作り、発表することができる。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・目的地までの乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりすることができる。【表現の能力】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体的評価規準		C努力を要する生徒への指導の手立て	評価場面(方法)
		A十分満足できる	B概ね満足できる		
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	対話作りや発表にすすんで取り組んでいる。	意欲的に対話文作成に取り組んでいる。適切な声量、アイコンタクトを心がけて対話している。	対話文作成や発表に取り組んでいる。ペアワークを続けようとしている。	頑張ったところやできたところをできるだけ具体的に褒め、励ます。	ペアでの対話文作成・発表(観察)
表現の能力	目的地までの乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりできる。	道案内の対話文を作り、暗唱して、正しい発音・イントネーションでスムーズに対話を続けることができる。	ワークシートをヒントにしなが、道案内の対話ができる。	個別にヒントを与え、考えさせる。教師の後に続いてリピートさせ、正しく読む練習をさせる。	ペアでの対話文作成・発表練習(観察)

(3) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

- ・十分な口頭練習により、乗り物での行き方を尋ねたり教えたりすることができる。

イ 定着を図る指導の工夫

対話の内容を理解した音読、発表練習をさせる。【音読】

板書やワークシートを手がかりに本時の学習内容について想起させ、学習事項の再構築を図る。【転写法】

ウ 動機付けの工夫

現実に近い場面設定をすることにより、学習意欲を喚起する。【興味・関心】

機械的な口頭練習から、場面を意識したコミュニケーション活動まで段階的に指導する。

【有能感】

ペアで道案内の対話を発表させ、評価する。【有用感】

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導及び支援の手立て 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準(評価方法)	研究内容との関わり
導入	1 Greeting			反復・ドリル
	2 Warm-up & review	how to ~を用いた Q&A により本時の内容把握につなげる。		
	3 学習課題の把握			

10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ skit から本時の学習内容を把握する。 	修学旅行を思い出させながら、学習意欲の喚起を図る。		動機付けの工夫
乗り物での行き方を尋ねたり、教えたりできるようになろう				
展開	4 Practice <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本表現を練習する。 ・ 道案内の様々な表現を練習する。 	テンポ良く、十分に口頭練習を行うことで次の表現活動につなげる。		基礎・基本
35分	5 Production <ul style="list-style-type: none"> ・ 獲得した表現を基に、ワークシートに従ってペアで対話文を作る。 ・ ペアで対話練習をする。 ・ 対話を発表する。 	現実に近い場面設定をすることにより学習意欲を喚起する。 個別にヒントを与え、考えさせる。 教師の後に続いてリピートさせ、正しく読む練習をさせる。 頑張ったところやできたところをできるだけ具体的に褒め、励ます。	【表現】 A 道案内の対話文を作り、暗唱して、正しい発音・イントネーションでスムーズに対話を続けることができる。 B ワークシートをヒントにしなが、道案内の対話ができる。 【関・意・態】 A 意欲的に対話文作成に取り組んでいる。適切な声量、アイコンタクトを心がけて対話している。 B 対話文作成や発表に取り組んでいる。ペアワークを続けようとしている。	動機付けの工夫 音読 動機付けの工夫
	6 まとめと自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 転写法を用い本時のまとめをする。 	板書やワークシートを手がかりに本時の学習内容について想起させ、学習事項の再構築を図る。		転写法